

人文科学研究科女性学専攻カリキュラム・マップ

DP (教育目標)

- DP 1 女性学及びジェンダー研究に係る専門的知識を習得し、活用することができる。
- DP 2 人文科学、社会科学の諸分野における女性学、ジェンダー論の視点や研究方法を理解し、女性学及びジェンダー研究において、国際的かつ学際的視野と高度な研究方法によって自ら設定した課題について探究することができる。
- DP 3 ジェンダー研究の成果をもって、ジェンダー平等社会の実現に向けて、国際社会における、性差別の実態を正確に把握し、その撤廃に取り組むことができる。
- DP 4 専門とする分野の必要に応じて、一つ以上の外国語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、ジェンダー平等社会の実現を推進する視野と実行力を修得し、各職業領域において、多様な立場の人々が共に生きやすい社会の実現に貢献することができる。

| 科目群 | 科目名 | 単位数 | 科目区分 | 科目概要 | DP 1 | DP 2 | DP 3 | DP 4 | SDGs該当項目 |
|------|----------------|-----|------|---|------|------|------|------|----------|
| 基礎論 | 女性学基礎論(思想と理論) | 2 | 必修 | 女性学・ジェンダー研究の思想と理論を学ぶ上で基礎となる文献を読み、その思想が後のフェミニズムや女性学・ジェンダー研究に与えた影響を理解するとともに、扱った文献の現代的意義を知る。 欧米と日本におけるフェミニズム運動の支柱となった思想を学ぶ。主として文献講読を行い、基礎的な文献に幅広く触れることを目標とする。 | | ◎ | | | 5,8,10 |
| | 女性学基礎論(研究/調査法) | 2 | 必修 | この授業において、社会調査で用いられる主な用語、および調査票調査や質的調査の方法についての知識の修得をつうじて、とくに社会学の研究/調査方法を理解し、自ら設定した課題を探究する力を養うことを目標とする。前半は、社会調査の考え方、調査票調査や質的調査の方法について、講義を中心とする。後半は、随時、各人の関心や研究テーマにふさわしい調査方法を見出し、実際の調査計画の報告を通じて、調査の考え方についての理解を深め、調査方法を身につけることとする。 | | ◎ | | | 5,8,10 |
| 専門科目 | ジェンダー研究:社会A | 2 | 選択 | この授業の目標は下記の通りである。 1. 持続可能性という観点から、人口減少社会日本の将来像を把握すること。 2. 近代以降の世界の人口移動について学び、現代との比較してその背景を考えること。 3. ヨーロッパ諸国の都市政策、家族政策の事例を学び、日本との比較を行うこと。 4. ドイツやフランスの家族観・家族政策の関係について、歴史的社会的な背景を知ること。 5. 日本における家族政策・ジェンダー政策の課題について知識に裏付けられた見解を示せること。 文献講読、履修者による発表とディスカッションを通じて、日本の家族およびジェンダー政策の課題を考える。文献講読では、履修者がテキストの各章を担当して意見交換を行う。 | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| | ジェンダー研究:社会B | 2 | 選択 | 本科目では、労働とジェンダーについての文献輪読を通じて、女性学・ジェンダー研究の専門的知識を身につけ、視点や研究方法を理解し、自らの課題設定、課題探究の力を養うことを目標とする。はじめに、社会科学における労働の論じ方を学ぶ。ついで、女性解放運動や日本のジェンダー平等の取り組みについて理解する。その後、労働領域についてのジェンダー研究の視点や現状分析を理解するために文献精読を行なう。 | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| | ジェンダー研究:社会C | 2 | 選択 | 本授業の目標は、国際開発課題とジェンダーや多様性の課題の関連性を理解し、ジェンダー視点に立った国際協力を進めていくための基礎知識、実践的なスキルや考え方を身に付け、グローバル人材としての基礎能力を養うことである。アジア・アフリカにおけるジェンダーと多様性と交差性の観点から、社会・コミュニティの開発政策へのインプリケーションをケース・メソッドや参加型演習を通じて理解を深める。 | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| | ジェンダー研究:社会D | 2 | 選択 | This course will provide students with a basic knowledge and understanding on the current state of girls/women and gender issues. Students are required to get familiarise themselves with some of the key terms often used in gender studies. Attempts will also be made to do some comparative analyses between Japan and other Asian countries especially on women's status and gender-related issues, and discuss further how we could change those situations towards more gender equal society. | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| | ジェンダー研究:文化A | 2 | 選択 | 「ジェンダー研究:文化a(Gender Studies: Culture a)」は、西洋美術史、視覚文化、表象文化におけるジェンダー批評を授業のテーマとする。美術史分野でのジェンダー批評のあり方の歴史・現状・展望について学び、文献、画像、映像など、多様な資料を対象として、新鮮な視点でジェンダー批評を考え試みることを授業の到達目標とする。 | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| | ジェンダー研究:文化B | 2 | 選択 | 時代、民族、階級、性、環境が、どのように個人の存在を規定しているかを、日本の代表的な女性文学のテキストを通して考察する。これらの学習から文学を分析する力、文化への視点を養成する。日本の代表的な近・現代の女性文学テキストを選び、作品を分析し、ジェンダーと文化のかかわりを明らかにしていく。 | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| 特別講義 | ジェンダー特別講義A | 2 | 選択 | ジェンダーの問題が論じられるようになって久しい。1985年に、男女雇用機会均等法が制定されて以降、様々な点が改善されてきたが、未だ、問題は残されている。また、社会的な改革とは裏腹に、「ことばとジェンダー」に関わる問題は、「ことば」というものはあまりにも無意識のうちに身につけたものだけに、その問題の存在に気づいてさえいないことも多い。本講義では、「ことばとジェンダー」に関わる文献を読み解きながら、その問題や課題を理解するとともに、それらについて自分自身で考える力をつけることを目標とする。また、これらの日本語の問題を「外国人に対する日本語教育」にいかにかかすかについても考える。 | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| | ジェンダー特別講義B | 2 | 選択 | 日欧の家族政策・ジェンダー政策を諸外国と比較検討する。特に、ドイツの家族政策に注目し、出産や子育てに対する社会的支援がどのように展開されているのかを学ぶ。発展的に、ヨーロッパ諸国やアジア諸国との比較についての調べ学習と報告を行う。講義、文献講読、履修者による発表とディスカッションを通じて、日本の政策課題を考える。テキストの他に、配布資料を準備する。事前・事後学習で理解を深めて欲しい。 | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| | ジェンダー特別講義C | 2 | 選択 | 「ジェンダー特別講義C」は、女性学、ジェンダー研究の基礎及び専門領域の知識や視野を広げるために、特別のテーマを設けた授業を行う。 | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| | ジェンダー特別講義D | 2 | 選択 | 「ジェンダー特別講義D」は、女性学、ジェンダー研究の基礎及び専門領域の知識や視野を広げるために、特別のテーマを設けた授業を行う。 | ◎ | ○ | | | 5,8,10 |
| | 女性学英文資料講読A | 2 | 選択 | 「女性学英文資料講読A」の目的は、英語で女性学・ジェンダースタディーズに関する研究活動を行う能力を養うことである。基本的な概念や理論を学ぶとともに、女性学・ジェンダースタディーズの関連する問題について英語で考察し、議論する。講義の終了時には、この分野における様々な学術的活動に従事するための理論的知識と言語的スキルの両方を身につけることができる。 | ◎ | | | ○ | 5,8,10 |
| | 女性学英文資料講読B | 2 | 選択 | 「女性学英文資料講読b」の学習到達目標は、英語を母語としない女性学専攻の大学院生が、女性学の専門分野に関する英文資料を読みこなす実力を養成することである。女性学とジェンダー研究に関して英語で書かれた資料の選定、意味の理解、専門文献の読解へ、が学習テーマである。授業では、参加者の英語読解力の確認、その結果に従った資料の選定と授業の進め方の決定、資料の音読、講読、意味の確認、新聞・雑誌の新着記事や新しい話題、図書館・インターネットの利用などについて扱う。 | ◎ | | | ○ | 5,8,10 |

| | | | | | | | | | | |
|----------------|--------------------|---|----|---|---|--|---|---|--------|--------|
| 資料 講読 | 女性学英文資料講読C | 2 | 選択 | 女性学、フェミニズム論、ジェンダー論に関する英文テキストを読み、女性学やジェンダー論に関連する基本概念について理解を深めるとともに、英語読解力の向上を目指す。使用するテキストは、Chimamanda Ngoi Adichie (2014) We Should All Be Feministをはじめ、Bonnie G. Smith (2013) Women's Studies the Basics, Vandana Desai and Robert B. Potter (2014) The Companion to Development Studies等から一部抜粋する。講義では、テキストを日本語に翻訳するとともに、その背景や用語、概念について解説することが求められる。 | ◎ | | | ○ | 5,8,10 | |
| | 女性学日本語資料講読A | 2 | 選択 | 「女性学日本語資料講読A」の学習到達目標は、女性学の専門分野に関する日本語資料を読みこなす実力を養成することである。女性学とジェンダー研究に関して日本語で書かれた資料の選定、意味の理解、専門文献の読解、が学習テーマである。授業では、参加者の日本語読解力の確認、その結果に従った資料の選定と授業の進め方の決定、資料の音読、講読、意味の確認、新聞・雑誌の新作記事や新しい話題、図書館・インターネットの利用などについて扱う。 | ◎ | | | ○ | 5,8,10 | |
| | 女性学日本語資料講読B | 2 | 選択 | 女性学・ジェンダー研究の専門文献、各自の研究テーマに必要な研究文献・一次資料などの精読を通じて読解力を高め、各自の課題を探究する力を養成することを目指す。日本語の文献資料を読み、各人の問題意識のもとに解釈する力をつけることを目的とする。主に近代日本の女性政策にかんする資料を扱う。 | ◎ | | | ○ | 5,8,10 | |
| | 女性学日本語資料講読C | 2 | 選択 | 「女性学日本語資料講読C」は、女性学、ジェンダー研究の専門分野に関する日本語の資料、文献を読解する力を高めることを目的とする。授業は主に、参加者の日本語読解力等に応じて、科目担当教員が指示する日本語の資料、文献を講読することにある。 | ◎ | | | ○ | 5,8,10 | |
| 分野 共通 科目 | 英語コミュニケーション(口頭発表法) | 2 | 選択 | This course will prepare graduate students for professional communication about their own research and career-related discussions and for discussions with others about their research and careers. Topics are highlighted in the Schedule (below), but will be tailored to fit the interests of enrolled students. We will prepare for casual discussions, conference presentations and dialogue, and other professional contexts, such as job interviews. | | | | ◎ | | |
| | 英語コミュニケーション(論文作成法) | 2 | 選択 | この授業の目的は、英語のレポート作成や修士論文執筆に必要なアカデミック・ライティングの表現方法と表現形式を学ぶことにある。特に、学術的な文章で求められる文体や書式、表記などの決まりごとを知り、適切なレベルの語彙を習得し要約能力を向上させることを目指す。また、一次資料と二次資料を駆使しながら自分の考えを適切に構成し、論理を展開する力がつくよう留意したい。前半は、英語によるアカデミック・ライティングの技法のポイントを学び、ポイントごとに必要な作業や練習を行う。後半は、テーマの設定から、資料の収集、講読、論文の執筆までの一連の流れを体験する。 | | | | ◎ | | |
| | 日本語プレゼンテーション技法 | 2 | 選択 | プレゼンテーションに関して、主に聴衆や対象者とのコミュニケーションに関する基本要素を学び、さまざまな演習を通じてプレゼンテーションの基礎技術を身につける。さらに効果的なプレゼンテーション資料の作成や、ディスカッションやディベートなどの演習を通じて、グローバルに活躍するためのコミュニケーション能力を養成する。身近な話題から、社会的に議論のある大きなテーマまで、幅広い題材を用いたプレゼンテーション演習を行い、プレゼンテーションの基本コンセプトと基礎的な技術を学ぶ。さらに、より効果的なプレゼンテーションに向けて、発表や主張したい内容の構造化、独創的なアイデアや着眼点を整理して文章化する知識も習得する。 | | | | ◎ | | |
| | 日本語ライティング技法 | 2 | 選択 | 日本語という言語の性格を了解した上で、文章における日本語の役割はどういうものであるかについて、様々な文献をとおして探求する。また、言語をどうやってうまく文章に表現できるかについても、その表現法におけるテクニックなどに関する知識は、授業でエッセイや小説や詩を通して言語の理解を深め、ライティング技法を身につける。毎回授業で用意した資料を丁寧に説明するとともに、言語と文章の関係性について詳しく説明する。必要時に言語に関する様々な資料と方法論を読む。 | | | | ◎ | | |
| 研 修 | 女性学インターンシップ | 2 | 選択 | 本科目は、ジェンダー研究の視点を持ち、国際的に活躍できる人材の育成を目標として設置された。英語をコミュニケーションツールとして、世界のジェンダー平等推進を担う人々と交流し、ジェンダー問題を解決するための実践力を養う事が期待される。多様なジェンダー問題を解決するための交渉の場に身を置くことで、グローバルな視点から日本の課題に取り組む力を養う。 | | | | ◎ | ○ | 5,8,10 |
| | グローバル実地研修 | 2 | 選択 | これまで学んだ教養知識を、現地を訪問することで確認し、事後あるいは論文作成の過程で、各自の研究テーマの視点から課題を設定し、考察するなど、今後の研究に生かす。 | | | | ◎ | ○ | 5,8,10 |
| 演 習 | 女性学演習Ⅰ | 2 | 必修 | 「女性学演習」では、修士論文の指導を行う。授業は演習形式で行い、毎回履修者の研究テーマに即した課題を設定して論文の執筆を勧める。履修者は、各学期に開催される論文中間発表会での報告を目指して、地道に研究を積み上げて欲しい。授業は、修士論文のテーマを設定し、テーマに関連する先行研究のリストを作成して十分な文献レビューを行う。履修者は順次、研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを行うと共に個別の指導を行う。「女性学演習Ⅰ」履修者は、研究テーマの設定、先行研究のリスト作成、文献レビューが、期待される水準に到達することを目指す。 | | | ◎ | ○ | 5,8,10 | |
| | 女性学演習Ⅱ | 2 | 必修 | 「女性学演習」では、修士論文の指導を行う。授業は演習形式で行い、毎回履修者の研究テーマに即した課題を設定して論文の執筆を勧める。履修者は、各学期に開催される論文中間発表会での報告を目指して、地道に研究を積み上げて欲しい。授業は、修士論文のテーマを設定し、テーマに関連する先行研究のリストを作成して十分な文献レビューを行う。履修者は順次、研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを行うと共に個別の指導を行う。「女性学演習Ⅱ」履修者は、研究テーマの独創性、研究方法の妥当性及び実現可能性、他研究分野との関連性が、期待される水準に到達することを目指す。 | | | ◎ | ○ | 5,8,10 | |
| | 女性学演習Ⅲ | 2 | 必修 | 「女性学演習」では、修士論文の指導を行う。授業は演習形式で行い、毎回履修者の研究テーマに即した課題を設定して論文の執筆を勧める。履修者は、各学期に開催される論文中間発表会での報告を目指して、地道に研究を積み上げて欲しい。授業は、修士論文のテーマを設定し、テーマに関連する先行研究のリストを作成して十分な文献レビューを行う。履修者は順次、研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを行うと共に個別の指導を行う。「女性学演習Ⅲ」履修者は、論文の章立て、論述の流れ、参考文献の把握と読解、調査の計画性が、期待される水準に到達することを目指す。 | | | ◎ | ○ | 5,8,10 | |

| | | | | | | | | | |
|--|--------|---|----|---|--|---|---|--|--------|
| | 女性学演習Ⅳ | 2 | 必修 | 「女性学演習」では、修士論文の指導を行う。授業は演習形式で行い、毎回履修者の研究テーマに即した課題を設定して論文の執筆を勧める。履修者は、各学期に開催される論文中間発表会での報告を目指して、地道に研究を積み上げて欲しい。授業は、修士論文のテーマを設定し、テーマに関連する先行研究のリストを作成して十分な文献レビューを行う。履修者は順次、研究の進捗状況を報告し、ディスカッションを行うと共に個別の指導を行う。「女性学演習Ⅳ」履修者は、修士論文の完成・提出を目指す。発表会において、参考文献・調査資料の妥当性・信頼性、分析考察の周到さ、論文作成能力の到達度、論文規模等が、期待される水準に到達しているか、十分に検討される。 | | ◎ | ○ | | 5,8,10 |
|--|--------|---|----|---|--|---|---|--|--------|

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」